

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	大規模ピロリ菌ゲノムプロジェクトへ向けたゲノム・メチロームパイロット解析 / Pilot-scale analysis of 5methylC methylome for Helicobacter pylori Genome Project
研究開発機関	千葉大学 大学院医学研究院
研究開発代表者	福世 真樹
研究期間	令和2年9月18日から令和4年3月31日

○評価委員会コメント

強み：

- 当初の目的である 5-メチルシトシン（5mC）の迅速安価な検出法開発とそれを活用したメチローム解析がなされており、PacBio シーケンサにより得られている 4-メチルシトシン（4mC）ならびに 6-メチルアデニン（6mA）に関するデータと合わせることで、メチロームが宿主相互作用に重要な役割を示していることを示した。当初計画に沿って成果が得られていると判断できる。基礎研究としてはレベルが高く、興味深い成果が得られている。
- 当初計画に基づいた成果は得られており、また、学会誌・雑誌等における論文、学会・シンポジウム発表も有る。

弱み：

- 研究の出口戦略を立てた方が良い。研究基盤の構築だけでは、社会的ニーズに対応する成果は出ない。研究成果がいかにか社会実装されるかの作業仮説をしっかりと作って研究を進めてほしい。
- 論文における研究開発代表者の中心的な関与がみられない。また、米国の PI の中心的な関与についても不明で有る。
- 本研究が若手・女性育成に資する国際共同研究であったのか、研究開発代表者が中心となって出した成果であったのか疑問が残る。